

新闻摘要

にゅーすきじ ニュース記事から (2020年12月1日~2021年5月31日)

有关遗华日本人等、中国・库页岛归国者的新闻

ちゅうごくざんりゅうじんらう 中国残留邦人等、中国・サハリン帰国者関連のニュース



2021 年 12 月 9 日 (星期四)

满蒙开拓和平纪念馆(長野県阿智村)の馆长寺泽秀文先生(68岁)于9日晚在松本市举行的“发誓永不再战的集会”上就满蒙开拓团的历史发表了演讲。曾有来自全国各地的27万人渡海去中国,其中長野県派遣の人最多,达3万千人。关于这个背景,寺泽先生解释其原因说:“由于耕地少、非常贫困,且县民们多本分朴实,而在行政和教育界里关于开拓推进论者居多。”此外他还说,在苏联军队进攻旧满洲后,日本政府和相关军置开拓团员于当地而不顾,造成了太多的悲剧。并且,满蒙开拓团也存在着掠夺当地的农田和家园的“侵略”、“加害”等问题,为了不让造成死亡人数如此众多的历史重新上演,寺泽先生呼吁有必要把看问题的视线转向全面。



12月12日(星期日)

作为中国归国者第二代的纪实文学作家的城戸久枝女士(45岁)于12日在自己父亲的故乡爱媛县的市立图书馆发表了演讲,她的父亲是一位遗华孤儿。城戸女士的父亲城戸干先生是由中国养母精心抚养长大的,后来又回到了亲生父母的身边。在介绍了父亲的半生后,城戸女士说:“由于战争我们在日本和中国两边的珍贵的家人被撕裂开来。这样的悲剧绝不能再次上演。城戸女士以自己与父亲的牵绊而写作的《远离那场战争后》获得了大宅壮一奖。

12月28日(星期二)

以描写遗华孤儿半生的小说《大地之子》而闻名的直木奖作家山崎丰子女士(1924-2013)设立的《山崎丰子文化财团》(大阪府堺市)决定扩大奖学金的发放对象。这项一直以来仅限于中国归国者子孙的奖学金,今后也将扩大到以“成为中日之间的桥梁”为理想的府内的高中生们。该财团基于山崎女士的“向归国后的孤儿伸出援助之手”的

2021年12月9日(木): 満蒙开拓平和記念館(長野県阿智村)の寺沢秀文館長(68)は9日夜、松本市で開かれた「永久に不戦を誓う集い」で満蒙开拓団の歴史について講演した。全国から27万人が海を渡ったが、長野県からは最多の3万3千人を送り出した。その経緯について、「農地が少なく貧困であったこと、まじめな県民性、行政・教育界に开拓推進論者が多かった」と理由を解説。また旧ソ連軍の満洲侵攻後、日本政府や関東軍が開拓民を現地に置き去りにしたことで、多くの悲劇を生んだと述べた。さらに満蒙开拓には現地の農地や家を奪った「侵略」「加害」の側面もあり、全体に目を向けることが、多くの犠牲を出した歴史を繰り返さないために必要ではないかと訴えた。

12月12日(日): 中国帰国者2世でノンフィクションライターの城戸久枝さん(45)が12日、中国残留孤児だった父の故郷である愛媛県の市立図書館で講演した。父・城戸幹さんは中国人の養母に大切に育てられ、のち両親の元に帰還した。その父の半生を紹介し、「日本と中国の大事な家族を戦争によって引き裂かれた。悲劇を繰り返してはならない」と語った。城戸さんは、父とのつながりをつづった「あの戦争から遠く離れて」で大宅壮一賞を受賞している。



12月28日(火): 中国残留孤児の半生を描いた小説「大地の子」で知られる直木賞作家山崎豊子さん(1924~2013年)の設立した「山崎豊子文化財団」(大阪府堺市)が、中国帰国者の子孫に限定していた奨学金の対象を拡大することを決めた。「日中の懸け橋になる」という夢を持つ府内の高校生らも対象とする。財団は、「帰国した孤児に援助の手を差し伸べたい」という山崎さんによって1993

愿望于 1993 年设立，至今为止已有 350 人利用了这项奖学金。



2022 年 1 月 29 日 (星期六)

在中日合作的电影《又见奈良》中担任执行制片人的河濑直美导演，在奈良县大和郡山市的电影院举行的预映式上进行了舞台问候，并说到“我认为在中日邦交正常化 50 周年之际将这部电影送给大家是一件很有意义的事。”这部电影讲述了一位养母在去日本寻找返回日本后就失去了联系的遗华孤儿的养女的过程中展开的小小的寻人之旅的故事。(《又见奈良》从 2 月 4 日 (星期五) 起开始在全国依次上映。)

2 月 15 日 (星期二)

由回到日本永住的遗华日本人二代成立的“九州地区中国归国者二代联络会”于 15 日公布了以全国的归国二代为对象实施的问卷调查结果。这次调查结果显示，回答调查问卷的人中 62.2% 的人有接受过生活保护的經歷，85.5% 的人回答说几乎没有晚年的积蓄。问卷调查去年以联络会为主进行实施，通过支援团体等收到了来自 18 个都道府县的回答。在关于日语的问题中，252 名回答者中有相当于百分之七十以上的 187 人回答“不太会”“几乎不会”。成年以后回到日本的二代由于语言障碍等找不到合适的工作，也没有来自政府的经济支援。调查显示即使是现在二代们在经济上也依然处于困窘的现状。

3 月 7 日 (星期一)

廣島の“H 館”位于距原子彈爆炸中心点 2 公里左右的地方，是为了支援被认为是在中国地方最大的被歧视部落而设立的机构。该馆运营的高龄者日托服务大约从 3 年前起开始接受遗华孤儿及其家属。据说在利用者的 60 人当中，有四分之一的人来自中国。日托服务的负责人说“我们希望发挥地区所拥有的包容力，创建一个能使人们更轻松舒适地聚集的场所。”

3 月 10 日 (星期四)

由来自敬和学園大学 (新泻县新发田市) 的三名学生制作的约 16 分钟的影像作品《満洲柏崎村

年に設立され、これまでに 350 人が奨学金を利用して

いる。
2022 年 1 月 29 日 (土) : 日中合作映画「再会の奈良」でエグゼクティブプロデューサーを務めた河瀬直美監督が、先行上映中の奈良県大和郡山市の映画館で舞台あいさつし、「日中国交正常化 50 周年の節目にこの映画を届けられることは意味のあることだと思う」と語った。映画では、日本帰国後に消息の途絶えた残留孤児の行方を追って来日した養母の、小さな旅が繰り広げられる。(「再会の奈良」は 2 月 4 日から全国で順次公開された。)

2 月 15 日 (火) : 日本に永住帰国した中国残留邦人の 2 世でつくる「九州地区中国帰国者 2 世連絡会」は 15 日、全国の 2 世帰国者を対象に行ったアンケート調査結果を公表。それによると、生活保護を受給した経験がある人は 62.2%、老後の蓄えが全くないと答えた人は 85.5% に上った。アンケートは連絡会が中心になって昨年実施し、支援団体などを通じて 18 都道府県から回答が寄せられた。日本語に関する質問では、回答者 252 人中、7 割以上にあたる 187 人が「あまりできない」「ほとんどできない」と答えた。大人になって帰国した 2 世は言葉の壁などで仕事に恵まれず、国からの経済的支援もない。今も経済的に困窮している実態が明らかになった。



3 月 7 日 (月) : 廣島の「H 館」は中国地方最大とされた被差別部落を支援するために設立され、原爆の爆心地から 2 キロほどの場所にある。同館の運営する高齢者デイサービスでは 3 年ほど前から、中国残留孤児とその家族らを受け入れている。利用者 60 人のうち、4 分の 1 が中国出身者という。「地域が持つ包容力を生かし、もっと気軽に人が集まる場所を目指したい」とデイサービス責任者は話している。

3 月 10 日 (木) : 敬和学園大学 (新潟県新発田市) の学生 3 人が制作した約 16 分間の映像作品「満

の軌跡》、于令和 3 年度在新泻县自制影像、视听教材竞赛中荣获优秀奖，10 日在新泻市内举行了放映会。1942 年该县的柏崎市派遣了 200 多人作为开拓团员去满洲（现在中国东北地区），一半以上的人在那里丧生。

3 月 16 日（星期三）

在中国黑龙江省的方正县有一块为曾经抚养过遗华孤儿的中国人养父母建的公墓。据说在战争刚结束后不久的动乱中，有 5 千多名日本人在逃亡过程中在此地丧生，就此产生了许多日本人孤儿。这块公墓是由返回日本的孤儿们“想报答养父母的恩情”而集资建造的，现在由于新冠疫情的往来限制，没有来访者。



3 月 19 日（星期六）

一岁时在日本统治下的南库页岛（现俄罗斯撒哈拉林）迎来了战争的结束，从 20 多岁时起一直在乌克兰生活的降旗英捷先生（78 岁），为了逃离俄罗斯进攻乌克兰导致的战火于 19 日回到日本。英捷先生于 1943 年出生在长野县，战争结束时他的父亲在库页岛南部担任灯塔看守的工作，一家人生活在一起。据说，由于妈妈临产以及哥哥受了伤等多种原因，没能撤离回国。降旗先生是 9 个孩子中的老二。其他还幸存着的兄弟姐妹们都已从库页岛或是乌克兰返回日本永住，都居住在北海道。

※降旗先生返回日本后，坚定了“想在兄弟姐妹们的身边生活”回日本永住的意愿，于 4 月入住到了在北海道的市营住宅。

3 月 27 日（星期日）

柏实先生（82 岁）是以民间的立场为遗华孤儿的归国竭尽全力的长崎县出身的作词家，他本人也是从旧满洲撤离返回的归国者。柏实先生的自传《人间地狱 从满洲国撤离回国的记录》（长崎新闻社发行）出版了。柏先生在满洲失去了母亲，不得已把妹妹和弟弟送给中国人寄养后撤离回国。在遗华孤儿寻找亲人过程中，柏实先生与长野县的住持山本慈昭先生（已故）一起成立了一个民间组织。奔走于向中国政府提交请愿书和与日本政府交涉之中，在当地的调查活动中起到了核心的作用。

州「柏崎村の軌跡」が令和 3 年度新潟県自作映像・視聴覚教材コンクールで優秀賞に選ばれ、10 日、新潟市内で上映会が行われた。同県柏崎市では 1942 年に 200 人あまりを满洲（現・中国東北部）開拓へと送り出し、半数以上が命を落とした。

3 月 16 日（水）：中国黒龍江省の方正県には中国残留日本人孤児を育てた中国人養父母らの公墓がある。終戦直後の混乱期、逃避行の過程でこの地に散った日本人は 5 千人とも言われ、多くの日本人孤児が生まれた。「養父母の恩に報いたい」と日本に帰国した孤児たちが費用を寄付して建てられたこの公墓だが、現在コロナ禍の往来制限で訪問者は途絶えている。

3 月 19 日（土）：1 歳の時に日本統治下の南樺太（現ロシア・サハリン）で終戦を迎え、20 代の頃からウクライナで生活してきた降旗英捷さん（78）が 19 日、ロシアのウクライナ侵攻による戦火を逃れて帰国した。英捷さんは 1943 年に長野県で生まれ、終戦時は樺太南部で父が灯台守を務め、一家で暮らしていたが、当時は母の出産や兄のけがなどが重なり、引き揚げがかなわなかったという。降旗さんは 9 人きょうだいの次男。存命する他のきょうだいはすでにサハリンやウクライナから永住帰国し、いずれも北海道で暮らしている。

※降旗さんはその後、「きょうだいのそばで暮らしたい」と日本への永住帰国の意思を固め、4 月に北海道の市営住宅に入居した。

3 月 27 日（日）：自身も満洲からの引揚者で、民間の立場から中国残留孤児の帰国に尽力した長崎県出身の作词家、柏実さん（82）の自叙伝「生獄 満洲国引き揚げ記録」（長崎新聞社発行）が出版された。柏さんは母を現地で亡くし、「妹」と弟をやむなく中国人に預けて引き揚げたという。残留孤児の肉親捜しでは長野県の住職山本慈昭氏（故人）とともに民間組織を設立し、中国政府への嘆願書送付や日本政府との交渉に奔走し、現地調

4 月 18 日 (星期一)

由回国永住的遗华日本人的子女成立的“九州地区中国归国者二代联络会”(福岡市)等,于 18 日在参院议员会馆(東京都千代田区)举行了院内集会,诉说中国归国者二代的艰辛的生活状况。联络会请求重新讨论面向对二代支援的国会审议并重新评估生活保护运用的基准,为了向众参两院请愿,已经收集了约 2 万 7 千人的签名。

4 月 23 日 (星期六)

追悼从岐阜县远赴旧满洲(中国东北部)的黑川开拓团的死亡者的慰灵祭于 23 日在加茂郡白川町举行。从 1941 年到 45 年约 600 人被派遣到开拓团,入居于吉林省的陶赖昭。在当地有 200 多人死于饥饿或是疾病。另外,当时作为对前苏联士兵保护开拓团员免受暴徒袭击的回报,未婚女性们还被强迫进行过“性招待”。



4 月 27 日 (星期三)

栃木县鹿沼市的“传承战争体验的讲述会”将战争体验的证言视频录制在 DVD 上,并不断努力将其体验传递给下一代。在证言视频中有 7 位居住在本市的人登场,讲述了各自在东京大空袭、鹿沼空袭、军队里的生活、学童疏散、以及从旧满洲撤离回国等的经历。视频还公开在该市官网的 YouTube (油管) 上。

4 月 29 日 (星期五)

29 日和 30 日两天,在兵库县丰冈市上演了根据丰冈市但东町高桥村“满蒙开拓团”的历史事实改编的话剧“土之诗—死了,不行”。由从大学生到 70 多岁的各个年龄层的同市市民组成的剧团《演剧 FACTORY》演出了战争刚结束后在旧满洲(中国东北部)发生的“满蒙开拓”的悲剧。据说该剧是根据当时集体投河自尽的幸存者的证词创作的。(H)

さかつどう ちゅうしんてきやくわり にな
查活動で中心的役割を担った。

4 月 18 日 (月): 永住帰国した中国残留邦人の子らでつくる「九州地区中国帰国者二世連絡会」(福岡市)などが 18 日、参院議員会馆(東京都千代田区)で院内集会を開き、中国帰国者 2 世の苦しい生活状況を訴えた。連絡会は、2 世支援に向けた国会審議や生活保護運用基準の見直しなどを求めており、衆参両院への請願に向け、約 2 万 7 千筆の署名を集めている。

4 月 23 日 (土): 岐阜県から旧满洲(中国东北部)に渡った黒川開拓団の犠牲者を偲ぶ慰霊祭が 23 日、加茂郡白川町で開かれた。開拓団には 1941 年から 45 年にかけて約 600 人が送り出され、吉林省の陶頼昭に入植。飢えや病により 200 人以上が現地で命を落とした。また旧ソ連兵に暴徒の襲撃から守ってもらった見返りとして、未婚女性らが性的な「接待」をさせられたこともあったという。

4 月 27 日 (水): 栃木県鹿沼市の「戦争体験を語り継ぐ会」は、戦争体験の証言映像を DVD に収録し、次世代につなぐ取り組みを続けている。証言映像には同市在住の 7 人が登場し、東京大空襲や鹿沼空襲、軍隊での生活、学童疎開、更に旧满洲からの引き揚げなど、それぞれの体験を語っている。映像は同市の公式 YouTube チャンネルでも公開されている。

4 月 29 日 (金): 兵庫県豊岡市で 29、30 の両日、豊岡市但東町高橋村「満蒙开拓団」の史実をもとにした「土の詩〜スワラ・ブシン(死んだらあかん)」が上演された。大学生から 70 代まで幅広い年齢層の同市市民で創る劇団「演劇 FACTORY」が、終戦直後の旧满洲(中国东北部)で起きた「満蒙开拓」の悲劇を演じた。劇は集団入水自決の生存者の証言をもとに構成されたという。(H)

◆ 请注意: 本栏目的新闻为见诸报端的报道摘要,并非政府正式公布的内容,其中一部分还包含媒体的观察消息。

◆ ご注意: 本欄の内容は、一般の新聞などで報道された内容を中心に要約して掲載しています。したがって、政府が公式に発表したものではなく、一部には報道機関の観測記事なども含まれています。